

日本の明治期における野球の普及と発展に関する一考察

A study of the spread and development of baseball in the Meiji era

1K07B006-6 熱田翔

指導教員 主査 友添秀則 先生 副査 小野沢弘史 先生

【本研究の動機】

日本において、外来文化であるスポーツは現在、様々な種目が存在し、世界選手権やオリンピックといった舞台でも、世界で戦える種目が増えてきている。そんな中、野球はオリンピックにおいても強豪に名を連ねていた。WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）の大会においても、二連覇という偉業を達成し、人々に日本の野球というものを印象付けている。実力もさることながら、人気といった部分でも野球は他の種目のスポーツよりもある。プロ野球の球団の近年の経営状態など、あまり芳しくないような情報は耳にするが、それでも野球人気や野球による収入というのは日本のスポーツ界においてトップクラスである。なぜ、野球がここまで名実ともに日本のトップのスポーツになっていったのかを考察していきたい。

【本研究の目的】

ベースボールがいつ、どのようにして日本に導入されてきたのかを明らかにし、ベースボールの特性が日本人にはどう合っていたのかを明らかにしていき、日本においてベースボールが野球になっていく過程で何があったのかを明らかにすることで、日本の外来文化受容についての当時の体制を踏まえ考察していきたい。最終的には野球がどのように全国的に普及し、発展していったのかを、時代背景や日本の特性や思想を織り交ぜて明らかにしていくことを目的とする。

【本研究の方法】

本研究は関連文献の講読、先行研究を参考とした文献研究にて行う。

【各章の概要】

【第一章 アメリカから日本へのベースボールの導入】

本論文で、野球を考察していくうえで、基となったベースボールの発祥から明らかにしていくこととする。ベースボールの起源についてはイギリス起源とアメリカ起源の二通りあり、なぜ二説あるのかを具体的に明らかにしていく。

ベースボールが日本に導入されたのは、明

治5年の説を本論文では定めるが、明治の6年説とは何が違い前者の立場を採ったのかも明らかにしていく。そして、当時の導入期の日本におけるベースボールはどういったものであったのか、どういった人々により伝えられ、行われていたのかを、考時代背景と共に考察していく。新橋アスレチック倶楽部を取り上げ、日本で最初に野球チームを組織した平岡熙とはどういった人物だったのかを踏まえ、日本の野球の導入機を探る。

【第二章 野球の発展】

一高の台頭により覇権はクラブチームから学校チームに移った。一高の野球というものは猛練習で得た成果の賜物であった。「勝利至上主義」や「鍛錬主義」という思想と野球が結びついていった背景を一高野球部から明らかにしていく。

また「野球」という用語やルールが醸成されていく過程を追い、どういった人々が貢献していたのかを追う。

【第三章 野球の全国への普及】

野台頭により球界の覇権は早慶の台頭により一高から早慶に移った。早慶の野球部の設立から早慶戦の始まりの背景を明らかにしていき、一高を早慶が連日撃破したことや早稲田の初のアメリカ遠征とはどういう効果をもたらしたのかを明らかにする。

また、野球害毒論とはどういうものであったのかを考察していき、教育とメディアがどう野球に関連していたのかを明確にし、日本での野球の全国的な普及というものを明らかにしていく。

【結章】

結章では、第一章から第三章までの内容を総括したものとする。第一章から第三章までの内容を踏まえて、野球と日本の明治期の時代背景や思想といったものから明らかになったことをまとめる。日本の明治期における野球の普及と発展についての総括とする。